

潮かせ

うしおかせ

<https://yorii.city-niigata.ed.jp/>

新潟市立寄居中学校学校だより

令和6年6月3日（月）発行

教育目標

【生きがい 思いやり 自治の力】

少しの勇気と、自分を信じて行動を。

～映画、えんとつ町のプペルから～

生徒指導主事 吉村 良平

「あの煙の向こう側を誰か見たのかよっ！誰も見てないだろっ！？だったら、まだ分かんないじゃないかっ！」

“えんとつ町のプペル”という映画の話である。崖に囲まれ、工場のえんとつの煙で、空が見えないえんとつ町。ハロウィンの夜に、配達屋が落とした“心臓”から誕生したゴミ人間。少年ルビッチと出会い、「プペル」の名をもらう。街の誰もが信じていない、「煙の先にある星」を信じる二人。二人で煙の上へ行き「星」を見る話だ。

「夢を語れば笑われて、行動すれば叩かれる、現代社会の縮図を物語にした。」と、作者の西野亮廣（にしのみきひろ）さんは話している。

インターネットが普及し、少し検索すると“正解”とされる答えがあふれている。間違い探しをしやすくなり、失敗をすると報道やSNSで叩かれ、失敗するリスクを背負わないことを選ぶ人が増えた。挑戦する前から“どうせ”、“無駄だよ”、“できるわけないじゃん”、という言葉の煙で前が見えなくなりそうな今日である。それは大人も子どもも同じであろう。

「他の誰もみていなくてもいい。黒い煙のその先に、お前が光を信じたのなら、行動しろ。思いしれ。常識に屈するな。信じ抜くんだ、たとえ一人になっても」ルビッチの父、ブルーノの言葉である。

いつの時代も本気で夢を見て、本気で行動した人が現状を変えてきたという事実がある。それを支えるのは、自分自身で変わっていかこうとする“勇気”と、変わっていく努力を“継続する力”である。他人のせいや、時代のせいにするのは簡単だ。しかし、自分の人生と、自分の心に嘘をつきたくはない。

私たちは、いつからでも、何にでも変わっていくことができる。あなたが“なりたい自分”はどんな自分ですか？



〈5月のスナップ〉

【校外学習 5月16日(木)】

○1学年 アグリパーク遠足



○2学年 新潟地域学習調査活動



○3学年 地域貢献



【生徒総会 5月21日(火)】



【思いやり集会 5月21日(火)】

